

1 調査名称：沖縄管内ITSを活用した歩行者安全対策検討調査

2 調査主体：沖縄総合事務局開発建設部

3 調査圏域：沖縄県

4 調査期間：平成24年度

5 調査費：4,000千円（当年度までの合計：24,000千円）  
（総合都市交通体系調査）

6 調査概要：

首里地区では、歩行者を対象に、平成22年度に首里駅から首里城公園までの円滑な誘導を、平成23年度に来訪者の回遊エリア拡大を目的とした実証実験が行われ、歩行者への情報提供による効果と課題が把握された。今後は、歩行者回遊促進のモデル地区として選定された首里地区での実験結果を踏まえ、沖縄の他の観光地においても同様の取り組みの展開が期待されているところである。

このような状況を踏まえ、本調査は、他の観光地にも共通的に適用可能な安全性及び回遊性に資する歩行者案内誘導方策のあり方の検討、とりまとめを目的に実施された。案内誘導方策は、首里地区での実験結果や、本調査で実施した沖縄市中心地区及び北谷地区のケーススタディの結果を踏まえ検討した。また、検討した案内誘導方策を他の観光地に共通的に適用できるようにするため、案内誘導方策検討のための現地調査、計画立案、評価等についてまとめたマニュアル（案）を作成するとともに、マニュアルの概要を整理したパンフレット（原稿）の作成も行った。

## I 調査概要

1 調査名：沖縄管内ITSを活用した歩行者安全対策検討調査

### 2 報告書目次

#### 第1章 業務概要

1. 業務目的
2. 業務対象地域
3. 業務実施方針

#### 第2章 計画準備

#### 第3章 歩行者の案内誘導方策検討

1. 本業務の対象となる観光地の把握
2. 他の観光地の現状把握
3. 首里地区との共通点・相違点の整理と課題把握
4. 相違点に関する全国の事例収集
5. 他の観光地におけるケーススタディの実施
6. 案内誘導方策のあり方の検討

#### 第4章 技術マニュアル（原稿）の作成

1. 技術マニュアルの概略検討
2. 全国における事例集の作成
3. 総合案内板等の概略検討
4. マニュアル（原稿）の作成

#### 第5章 パンフレット（原稿）の作成

#### 第6章 今後の課題

#### 別添資料

- ・歩行者向け案内誘導に関するマニュアル（案）
- ・歩行者向け案内誘導に関するパンフレット（案）

#### 参考資料

- ・業務計画書

離島における観光資源に関するデータ

琉大生による現地点検結果

3 調査体制

委員会や幹事会等での検討はなし

4 委員会名簿等：

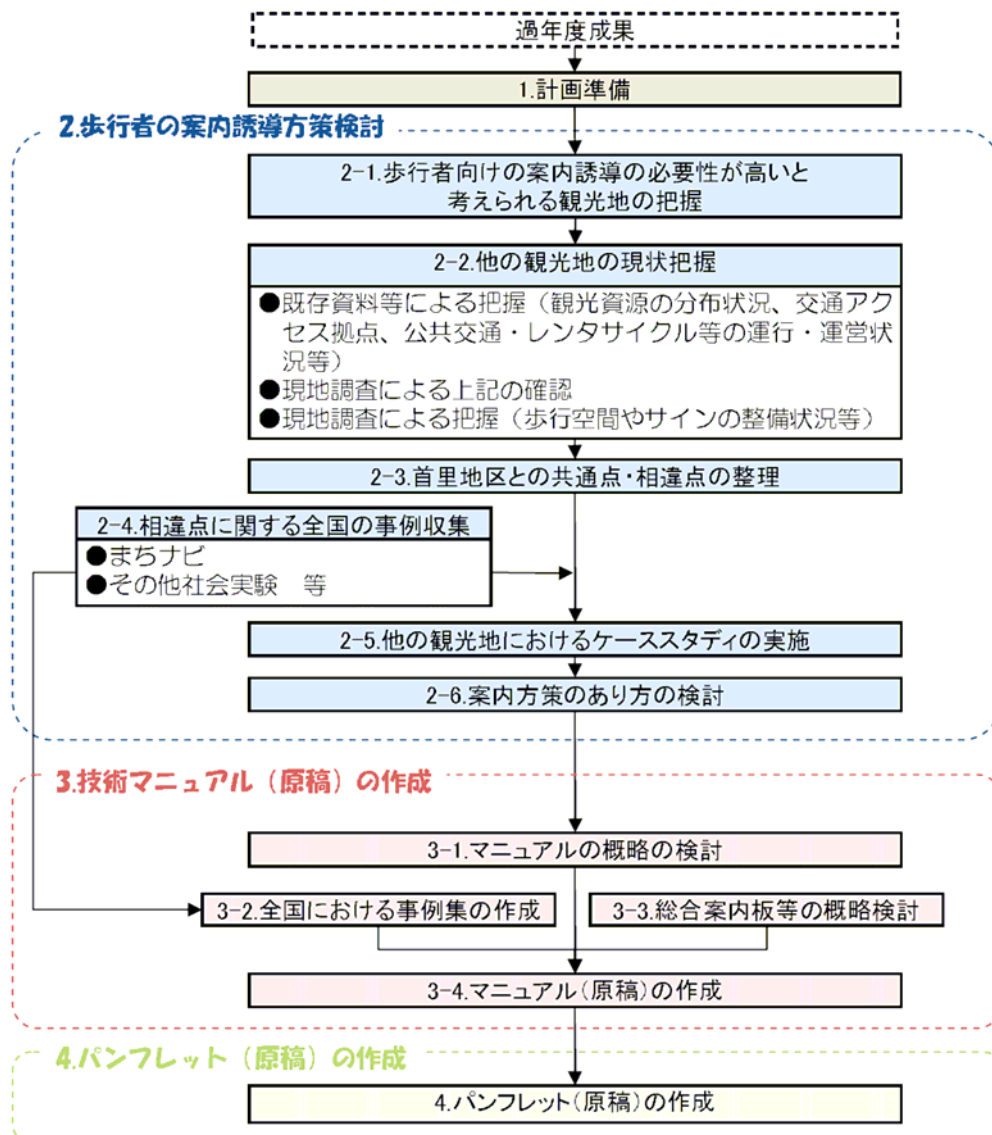
委員会や幹事会等での検討はなし

## II 調査成果

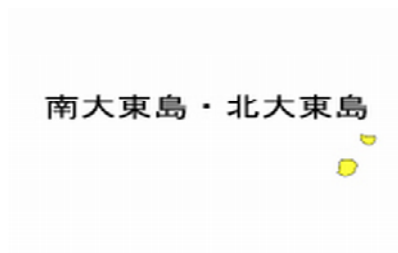
### 1 調査目的

本調査は、平成22年度、平成23年度に歩行者を対象に案内誘導を行った首里地区での実証実験の結果を踏まえ、他の観光地においても共通的に適応可能な成果を抽出し、安全性及び回遊性向上に資する歩行者案内誘導方策のあり方を検討、とりまとめることを目的に実施された。なお、歩行者案内誘導方策の検討にあたっては、モデル地区である首里地区での実証実験結果を補完するため、首里地区と異なる特徴を持った観光地である沖縄市中心部と、北谷地区を対象に、ケーススタディを実施した。

### 2 調査フロー



### 3 調査圏域図



#### 4 調査成果

##### (1) 歩行者の案内誘導方策の検討

###### 1) 案内誘導のパターン

平成23年度に開催された「首里地区回遊促進策実証実験検討委員会」では、歩行者の案内誘導方策として、3つのパターンが示されており、本調査においてもこの分類にしたがって、歩行者の案内誘導方策を検討した。

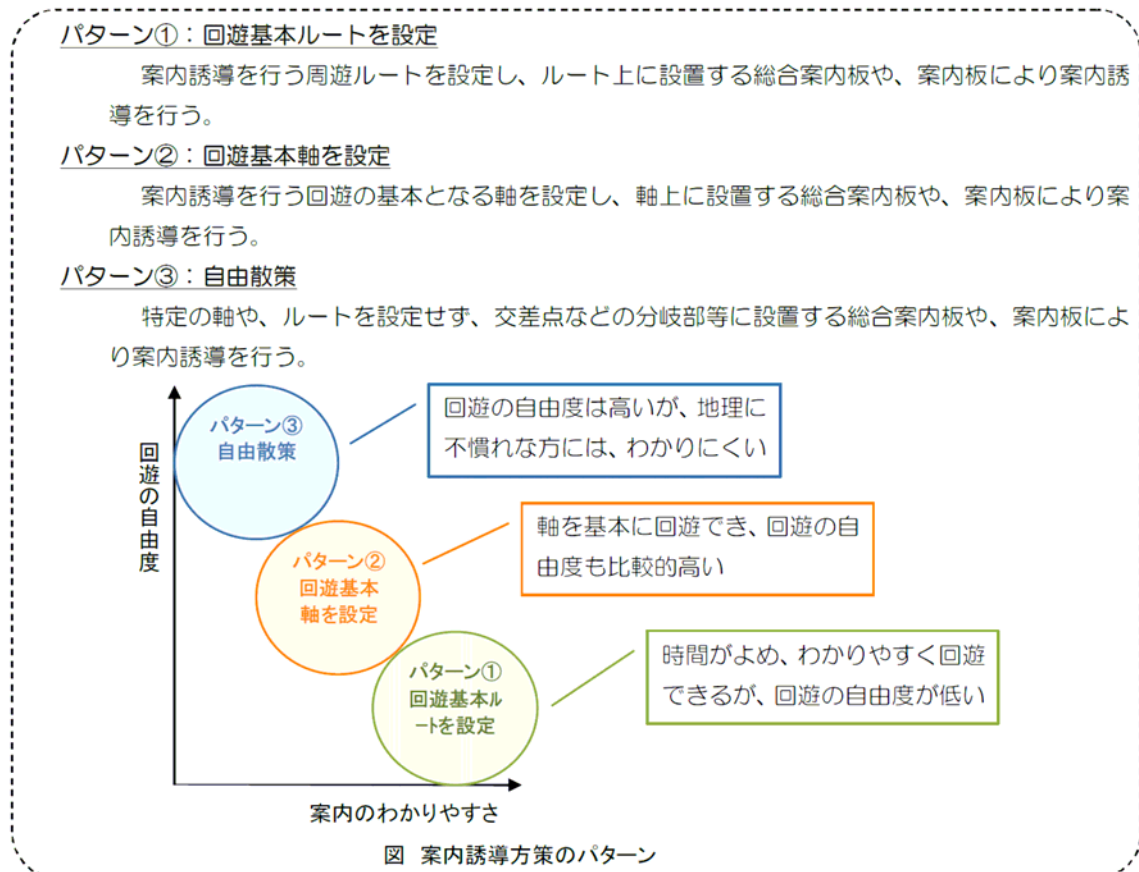


表 案内誘導方策のパターン分類の目安

項目	パターン① 回遊基本ルート	パターン② 回遊基本軸	パターン③ 自由散策
道路形状	不整形で入り組んでいる	比較的格子状に整っている	格子状で整っており、区画も大きい
来訪者の回遊状況	特定の通りを回遊	比較的特定の通りを回遊	自由に回遊
観光資源の種類	民間施設が少なく、史跡や博物館など公的なものが多い	民間施設が比較的多い	民間施設が多い
その他	回遊ルート設定に対する地元の意向が高い。	通りが観光資源であったり、通り沿線に多くの観光資源が集中している	

## 2) ケーススタディの実施

### ① ケーススタディ地区のパターン分類

昨年のモデル地区である、「首里地区」は、「パターン①：回遊基本ルート」が該当するが、今回のケーススタディの対象となる、「沖縄市中心地区」及び「北谷地区」の案内誘導方策のタイプは、道路形状、回遊状況等を考慮すると「沖縄市中心地区」は”パターン②：回遊基本軸”、「北谷地区」は”パターン③：自由散策”の適用が適していると考えられる。

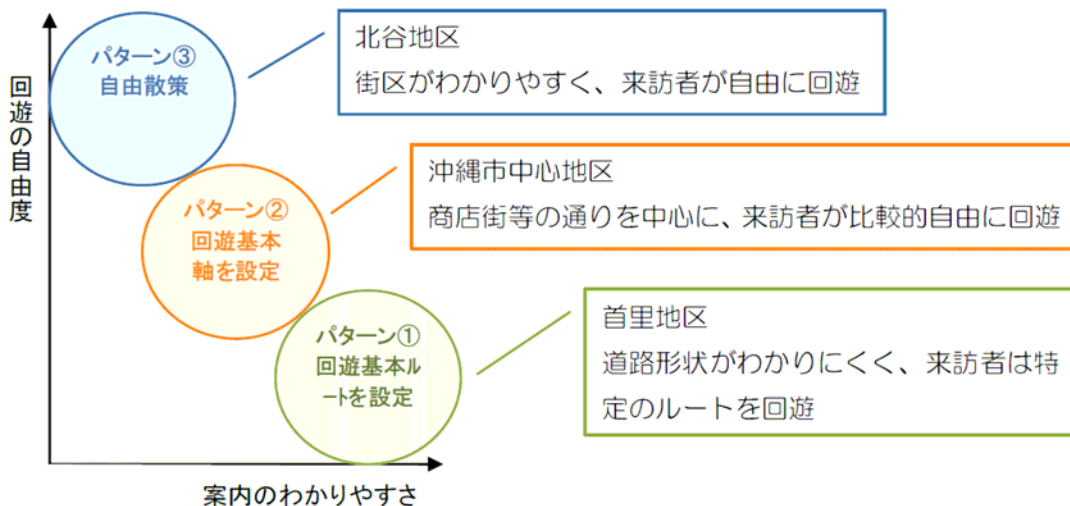
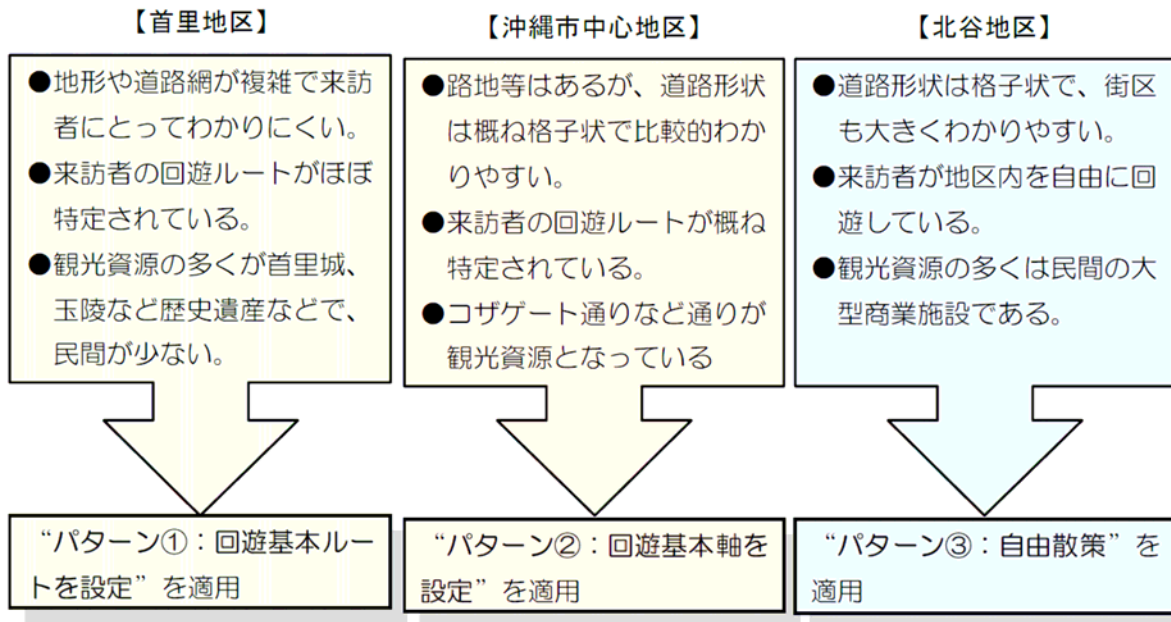


図 首里地区、沖縄市中心地区、北谷地区での案内誘導方策のパターンの適用



## ② 沖縄市中心地区でのケーススタディ

- 沖縄市地区では、多くの来訪者が訪れる「中央パークアベニュー」、「コザゲート通り」、「一番街」、「国道330号」等の幹線道路や商店街が回遊基本軸として位置付けられる。
- 回遊基本軸である「一番街」から周辺の「ヒストリート」や「サンシティ商店街」への回遊を促すため、一番街商店街にそれら観光資源に誘導する案内板の設置が考えられる。
- また、地区全体の観光資源の位置情報や現在地の情報を提供するため、回遊基本軸の主要施設である「コリンザ」、「コザミュージックタウン」や、主要な交差点での総合案内板の設置が考えられる。



図 沖縄市中心地区でのケーススタディ



### ③北谷地区でのケーススタディ

- わかりやすい道路形状であるため、回遊基本ルート、回遊基本軸を設定せず、主要交差点や分岐部に適宜、現在地や目的地との位置関係を把握するための総合案内板、案内板を設置し、来訪者の自由な回遊を支援する。
- また、北谷地区の観光資源の多くは民間の商業施設であり、道路管理者等による直接的な案内は困難であるため、ブロック割を行い、ブロック単位で概ねの方向への誘導を図る。
- 個別の店舗等への誘導は、商業施設等で設置する総合案内板や、マップ等での対応を考える。



図 北谷地区でのケーススタディ

### 3) 案内誘導のパターン別の検討

#### ①パターン1：回遊基本ルートを設定

##### 【考え方】

- 駅や、バス停、駐車場、主要な観光資源等を起終点に、主要な観光資源、地域から案内誘導の要望が高い観光資源を結ぶ回遊基本ルートを設定し、ルート上に案内案、総合案内板を設置することで、誘導を図る。
- 回遊基本ルート設定にあたっては、極力、歩道が整備されている安全なコースを選択する。
- 来訪者が迷わないようにするため、分岐部には案内板を設置する。
- 来訪者の滞在時間や関心にあわせ、ルートは複数設定する。
- ルートが交錯する箇所や主要交差点には総合案内板を配置し、観光資源の位置や、現在地、ルートの概況を把握できるようにする。
- 道路管理者等が設置する総合案内板、案内板には回遊ルートの記載が困難な場合も考えられるため、ルート表示については散策マップ等で補完する。
- 案内板には、当該ルート上の観光資源を中心に記載する。

##### 【留意事項】

- 回遊基本ルートの合意形成を図るため、観光資源は、史跡や博物館など公的なものに限るのが望ましい。

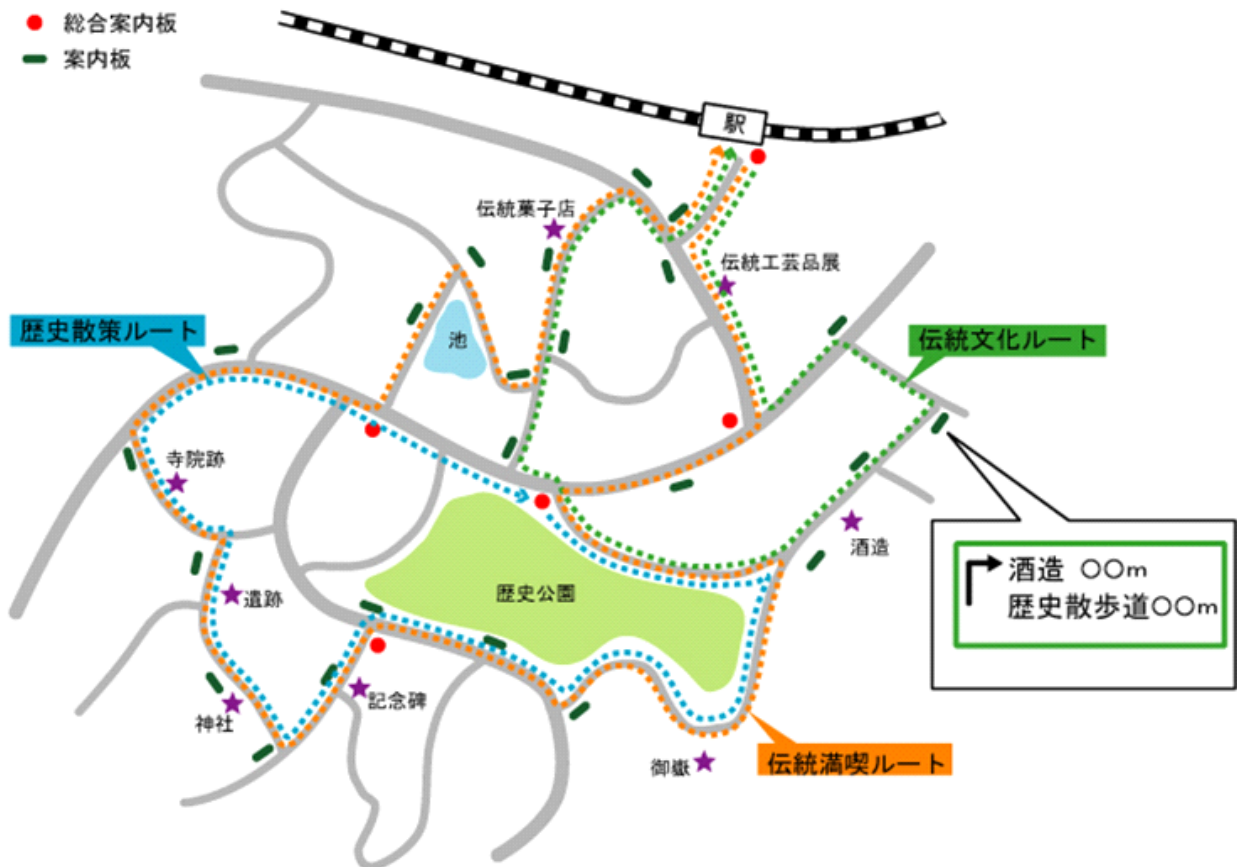


図 パターン1:回遊基本ルートの設定例

## ②パターン2：回遊基本軸を設定

### 【考え方】

- 来訪者の通行が多い通りを中心に、交通拠点や主な観光資源を連絡する通りを回遊基本軸として設定する。
- 回遊基本軸上の主な観光資源など主要な交差点に総合案内板を設置し、現在地と観光資源の位置関係を把握できるようにする。
- 回遊基本軸から少し離れた観光資源に誘導するため、回遊基本軸での分岐部に案内板を設置する。
- 主要な交通拠点とは、回遊基本軸又は支線で連絡し、適切に案内誘導が行えるようにする。
- 案内板には、当該の回遊基本軸上及び支線にある観光資源を中心に記載する。

### 【留意事項】

- 回遊基本軸は、案内誘導の考え方として設定するものであり、総合案内板、マップ等に記載する必要はない。
- 回遊基本軸を設定するにあたっては、現在の来訪者の動線とともに、歩行空間の安全性についても配慮する。



図 パターン2:回遊基本軸の設定例

### ③パターン3：自由散策

#### 【考え方】

- 来訪者が自由に回遊しても、現在地を的確に把握できるようにするため、主要な交差点、観光資源に適宜、総合案内板を設置する。
- また、案内板により最寄り観光資源への円滑な誘導を図る。
- さらに、現在地を的確に把握できるようにするため、通り名プレートを設置する。
- 歩行者の安全な移動を支援するため、信号交差点の位置を総合案内板や散策マップに表示する。

#### 【留意事項】

- わかりやすい道路形状の地区で適用する案内誘導方策であるが、より安心して回遊できるようにするため、ランドマークとの位置関係が把握できる案内板を設置することも考えられる。
- 案内誘導の対象となる観光資源が多い場合は、地区全体で紹介する観光資源と、周辺地区のみで案内する観光資源などランク分けを行い、案内板に掲載する観光資源を整理することも考えられる。



図 パターン3:自由散策の設定例



#### 4) 課題に対応した案内誘導方策の検討

過年度の首里地区の検討結果、今年度の沖縄市中心地区、北谷地区のケーススタディにより、アクセス、地区内での回遊、情報提供の内容に関して、以下のような課題と課題解消に向けた案内誘導方策が検討された。

表 個別課題に対応した誘導方策の対応例

区分	課題	案内誘導方策の例
アクセス	交通拠点から主要観光資源までの円滑な誘導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●案内板、散策マップによる駅・バス停・駐車場等の交通拠点から主要観光施設までの経路での案内板、総合案内板設置による円滑な誘導</li> <li>●散策マップ、QRコード等による交通拠点から主要観光資源までの経路案内</li> </ul>
	分散する交通拠点を起終点とした案内誘導	●交通拠点から、案内板による回遊基本軸への誘導及び回遊基本軸から交通拠点への案内板設置による誘導
地区内での回遊	特定の施設から周辺施設への回遊促進	●主要観光資源を起点とした回遊ルートを設定、ルート上に総合案内板、案内板等を設置し、周辺の観光資源に誘導
	特定の動線が形成されていない状況での案内誘導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●案内板、通り名プレート等による現在地表示と回遊の目印となるランドマークの行き先案内による来訪者の自由な回遊支援</li> <li>●QRコード、スマートフォンを活用した現在地や経路に関する情報提供</li> </ul>
	集積する商業地への案内誘導	●公共と個別店舗等の連携による段階的な誘導（公共で、商店街名、通り名やブロック名を示した案内板等で大まかな案内誘導を行い、個別店舗等でマップや、HPで詳細な情報を提供）
	公共交通等による回遊促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光資源での案内板による最寄りバス停等の位置情報提供</li> <li>●案内板へのQRコード等の添付による公共交通の運行状況に関する情報提供</li> <li>●バス停での総合案内板や案内板による周辺観光資源への誘導</li> <li>●バス停でのQRコード等による周辺観光資源の情報提供</li> </ul>
情報提供の内容	外国人向けの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本語、英語の2カ国語表記による総合案内板、案内板の整備</li> <li>●ピクトグラムを活用した外国人向けの情報提供の実施</li> <li>●多言語対応の散策マップの配布</li> </ul>
	体系的な情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合案内板、散策マップ等のベースマップや、施設名の表記、ピクトグラム、凡例等の統一</li> <li>●情報の一元管理による定期的な情報更新</li> </ul>

## (2) マニュアル（原稿）の作成

昨年度のマニュアルの構成案を踏まえ、計画マニュアルとして必要な項目である現況把握と社会実験、検討体制を追加して、マニュアルの項目を設定した。

マニュアルは、自治体などの担当者が検討エリアにおいて歩行者向けの案内誘導を計画する時に使用することを想定している。このため、読みやすさに配慮して、要点をわかりやすく記載した50頁程度（参考資料を除く）にまとめるようにした。

表 マニュアルの構成

項目		記載内容
技術マニュアルについて	はじめに	●マニュアルの目的、対象者、対象地域、本書の構成
	検討の手順	●計画の手順（フロー図）
現況把握	現況把握	●把握項目 ●把握手法
	問題点・課題の把握	●問題点・課題把握の視点
計画立案	案内誘導の目標設定	目標設定の例
	案内誘導の対象	●情報提供の対象者 ●対象エリア ●対象施設
	案内誘導方策の検討	●案内誘導方策の考え方のパターン
	情報提供ツール	●情報提供 ●情報提供ツール ●情報提供ツールのデザインの考え方
社会実験	社会実験計画の検討・実施	●社会実験実施に向けた検討内容及び検討の進め方 ●実施方法等
評価	評価	●評価項目 ●評価手法
検討体制	実施体制	●検討体制の考え方
参考資料	首里地区実証実験調査計画書	●調査目的 ●調査方法
	全国の徒歩での回遊促進事例	●まちナビ ●「通り名」で道案内

### (3) 今後の課題

#### デジタル機器を活用した歩行者案内誘導方策の検討

本業務は、来訪者にとって簡単でわかりやすく利用できるツールとして、「総合案内板」、「案内板」、「散策マップ」等のツールを利用した案内誘導方策の検討を行ってきた。一方、全国各地では社会実験等で多くのデジタル媒体を活用した案内誘導の取組が行われ、また、近年は急速にスマートフォンが普及してきており、デジタル媒体を気軽に利用できる環境が整ってきている。このような背景を踏まえ、今後はデジタル媒体を活用した案内誘導方策の検討も必要になると考えられる。

#### 他地区での実践をつうじたマニュアル(案)の見直し

本業務では、モデル地区の「首里地区」、ケーススタディを行った「沖縄市中心地区」、「北谷地区」で検討した案内誘導方策の検討結果をもとに、歩行者の案内誘導に関するマニュアル(案)を作成している。今後、他地区でマニュアルをもとにした検討を行うことで、既存のマニュアル(案)では対応できない課題や、新たなツールの活用が検討する状況も十分に考えられることから、他地区での実践での検討を通じたマニュアル(案)の見直しが必要になってくる。

#### 自転車を対象とした案内誘導方策の検討

本業務は、歩行者を対象に検討を行ったが、沖縄では沖縄本島のみならず、離島でも多くのレンタサイクルが導入されており、観光に自転車が活用されている。このような状況を考慮すると、本業務で検討した歩行者向けの案内誘導方策を、自転車向けに展開していく必要性が高いといえる。